



▲日本海側や東北地方で記録的な大雪に (写真は新潟県湯沢町)

南岸低気圧と東京付近の降雪



武彦氏が解説する。「関東地方の大雪は日本の南岸を西から東へ向かう『南岸低気圧』が原因です。冬型の気圧配置が緩んだすぎに発達し、地表の気温が低いと大雪をもたらず。今冬も気温は低くなる傾向なので警戒が必要です」

今年も大雪が降りそう

'14年2月に首都圏を襲った、2度にわたる大雪は記憶に新しいだろう。東京でも27cmの積雪を観測した。元気象庁予報課長で、「気象コンパス」代表の古川

年

末年始、車で日本海側に帰省する人は降雪による立ち往生に気がつけたほうがいい。気象予報士の森朗氏がこう警告する。「昨年末は関越道で、年初は北陸道で大規模な立ち往生が発生しました。今年も似たような大気の

日本海側は豪雪に見舞われる

状態です。ラニーニャ現象が発生しており(左ページで詳述)、冬は相当寒くなるの見込まれています。湿った空気が流れ込む日本海側は大雪になることが予想されます。日本海側に雪が降ると、太平洋側は乾燥した気候になるので、こちらは火事に気をつけてください」

日本海側沿岸部の雪の降り方



雪道の歩き方

- ①歩幅は小さく
- ②靴底全体をつけて
- ③時間に余裕をもって

雪道を歩く時の服装

- ①滑りにくい靴を履く
- ②帽子をかぶる
- ③手袋をする

さらに両手を空けておくことで転倒事故防止につながる



雪道を歩くポイント

雪に不慣れな都会人にとって雪道を歩くことは非常に危険だ。転ばないためのコツは、歩幅を小さく、靴底全体を路面につけて、ゆっくりと歩くこと。滑りにくい靴を履いたうえ、万が一、転んでも怪我がないよう、帽子や手袋を身につけておきたい。肩掛けのかばんで両手も空けておこう。

雪道を転ばずに歩くには

この冬、豪雪と大寒波が日本列島を襲う